【小児科】

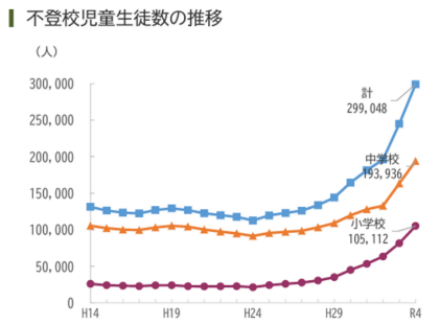
不登校
～　その対応の国際比較　～

小児科医師：冨田 雄一郎

年々増える不登校の子どもたち。日本でこんなにも問題視されていて、それでも中々登校を再開できる子どもたちも多くない状況なのだから、他の国でもきっと同じに違いない、でもどういう訳だかあまり世界ニュースとして大きく取り上げられることがない。

何故？と思い、世界の不登校事情を調べてみました。

日本の不登校児童数の推移



これは「令和 3 年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」（文科省）から抜粋したグラフです。驚くほど増えています。コロナ禍で登校の自粛や臨時休校などで周囲との繋がりが無くなり、休校が解除されても友人と上手くやれるかとか、思ったより勉強が遅れてしまい勉強が追いつかないとか、など不登校になりやすい環境があったためと思われます。

私としては予想通りだなという印象でした。

日本以外の不登校対応

私が世界での不登校の対応について調べようと思ったのは 1 本の youtube のショートからでした。

https://www.youtube.com/shorts/r6CqYpXR67k　←　これがそのショート

そんなことがあるのか…。文化が違うとこうも違うのか…。

他の国ではどう対応しているのか調べてみました。

1．アメリカ
- 不登校児の保護者が逮捕される。
- これは不登校＝児童虐待（ネグレクト）をしていると考えられる。
- 子どもが問題を抱えているのに周囲の大人が対応していないという評価。

2．ドイツ
- 不登校児には段階的に措置が講じられる。最終的には強制就学（強制的に学校に連れて行く）。
- 強制就学に反した場合には過料（罰金）が課される法律がある。

- ホームスクーリング、通信制教育は法律で禁止されている。

3. イギリス
   - 不登校は怠学という単語で表される。
   - ホームスクーリングが義務教育として認められている（なので行かなくても勉強していれば OK）。
   - フレキシブルスクール（週に数日のみ登校）に通う子が増えている。

4. 韓国
   - 学歴社会が熱くなりすぎ、当然適応できない子どもが不登校になり、数が増えている。
   - 正規の義務教育校に通えない子たちが学ぶオルタナティブスクールが激増している。
   - オルタナティブスクールを卒業しても義務教育修了とはならない場合が多い。

5. 台湾
   - 日本と同様に不登校は社会問題だった。
   - 不登校児保護者が実験学校（オルタナティブスクール）を設立し運営している。
   - 教育方法の選択肢が豊富なため、現在では不登校率は低下している。

国によって対応は様々。日本でも教育方法の多様化を認め、保護者がその多様性を受け入れ、スクールカウンセラーの常駐、臨床心理士の国家資格化や開業許可などを進めれば、不登校率を下げ、心の問題を抱えている子どもたちが相談する先を数多く確保することが可能になると思います。

これらの問題が解決しても、不登校児が増えすぎてしまっている今、すぐに全ての不登校児や保護者はその恩恵を受けられないと思います。ご自宅でできることとしたら、まずは体の病気が無いかを小児科で確認し、無いなら規則正しい生活ができるよう、保護者も一緒に努力する必要があります。

具体的には

① 寝る時間を決めて、それを守らせる。
② 起床時間を決めて、それを守らせる。
③ 睡眠時間は、思春期までは 8-10 時間必要。
④ 日光を浴びるように、散歩、お使い、などで毎日 1 時間以上外出時間を確保する。
⑤ ご飯は 3 食食べるが、おやつ、清涼飲料水は止める。
⑥ 給食センターを利用して外出する機会を作る

⑦ コーヒー、紅茶、抹茶、エナジードリンクを飲まない　　などです。

体調不良を理由に学校を休むことが多くなってきたらまずは小児科を受診し体の病気が無いかどうか確認し、体の病気がなければ心の病気が無いかを専門の先生に診てもらう手はずを整えましょう。その間、保護者の方々は子どもの友人や近所の方々、学校の先生と話をし、学校に行きたくない原因となる環境の問題が無いかを探っておきましょう。もちろん本人とも何気ない話を毎日し、我が子が問題と直面しているのかを探ることも忘れずに。